

非漢字圏初級学習者への「漢字」指導：

協働学習による初級非漢字圏学習者の学習成果**

Akiko Ikehara, Nihon Keizai University (JUE)
ikehara@fk.jue.ac.jp

要旨

It is generally assumed that, in teaching Japanese characters to Japanese language learners, one begins with Kana, subsequently progressing to Kanji. However some Non Kanji Background learners experience difficulties with Kanji not encountered during the learning of Kana, even at an elementary Kanji level. This is explained due to Kanji having the following characteristics: 3 elements, shape, sound, and meaning, and at the same time, it is a unit which each character has meaning. Also the way of reading Kanji is varied and complicated. This makes learning Kanji tedious and burdensome for some students. The Peer Learning Method is discussed. This is a method of class activities building comprehension cooperatively with other classmates used since 2010. The results are analyzed over the 2 year period. It may be inferred from records of exchanges between learners, interviews with learners, and analysis of surveys given to learners, that Peer learning encourages learners to study Kanji individually. Learners' satisfaction is high and average results of all tests were higher. So far there have not been many report about introducing peer learning in teaching a method to write Japanese. There are a few examples on introducing peer learning in teaching, especially Kanji. It is believed that successful results can be achieved through this teaching method. From now on I would like to continue further implementation of this method and thereby demonstrate the effectiveness of peer learning.

キーワード

漢字学習、初級学習者、非漢字圏学習者、協働学習、記憶の保持、自律学習

1. はじめに

日本語学習者に対する文字の指導は、通常仮名の指導から漢字の導入へと進む。非漢

* English title: “Teaching Kanji for Beginners Non Kanji Experienced“

* This paper was presented to the 18th Biennial Conference of the Japanese Studies Association of Australia at the Australian National University from 8th to 11th July 2013 and has been peer-reviewed and appears on the Conference Proceedings website by permission of the author who retains copyright. The paper may be downloaded for fair use under the Copyright Act (1954), its later amendments and other relevant legislation.

字圏学習者の中には漢字の習得に際して仮名の習得時にはなかった困難や難しさを感じ、日本語学習から脱落していく学習者がいる。それは漢字が形・音・義の3要素を備え、文字であると同時に意味を持つ単位体であるという特性を備えているせいであり、読み方も多様で複雑であるために学習者にとっては習得に際して負担が大きい。

更に時間的制約等の理由から、教師が教科書に出てくる漢字を紹介、練習し、テストで、定着を図るといふ、教師主導の教授法で、漢字学習の大部分が学習者の自学自習に委ねられることが多かったため、本来、論理的に記憶していくことで、漢字の定着、応用につながり、学習意欲を刺激していくものが、学習者によっては意味もなく覚えることにもなり、そのことが、漢字嫌いを作り出す一つの要因となったと思われる。その一方、漢字学習に興味を示し、漢字学習を進めていく学習者もいる。

2010年9月から仮名の学習に学習者同士が協力し、理解を構築していく教室活動、協働学習（Peer Learning）（以下PL）を取り入れたことにより、仮名の習得率が上がり、書き方の正確度もまし、学習者の満足度も高かったことから、2011年から、仮名の学習後も継続的に漢字の指導に、協働学習（PL）を取り入れた。その結果、学習者同士は漢字の書き方、読み方、覚え方、記憶の方法など、互いにペア、又はグループで各自の知識、方略を交換し、学び合うことで、従来の教師主導の漢字指導の際に必ず出てくる漢字嫌いが減り、各課ごとの小テストも全員が90%を維持できるようになった。今回は特に成果のあった、2012年度の学習者のデータの分析を行い、報告する。

2. 先行研究

漢字教授法に関する研究は有山優樹他の漢字を学習者の日常生活や日本語学習において必要とされる場面でまとめ、その文脈の中で、情報を得たり、運用したりできることを目指し、学習者の漢字学習ストラテジーを、インターアクションを通じて、学習者と教師、学習者同士が共有するという、インターアクションによる、漢字学習（2008日本語教育学会予稿集）、平塚真里・副田恵理子の漢字辞書の使用能力を高めることで漢字の運用能力を高める（2005日本語教育125号）、清水百合・加納千恵子の学習者の漢字学習の自習にCAIを利用し成果を得たもの（1992日本語教育78号）、川口儀一のコミュニカティブ・アプローチによる漢字指導（1993日本語教育）、谷田部由木の認知心理学的な観点から非漢字圏理系学習者のための効果的な漢字指導（2007日本語教育学会秋季大会予稿集）など多数あるが、特に、豊田悦子が漢字学習者に行った調査結果で、学習者が最も難しいと感じるのは記憶の保持であり、豊田は初級から自律学習を目指した漢字指導が不可欠であると提案している。（1995日本語教育）

今回調査対象とした学習者は英語圏の交換留学生（学習期間、約10カ月、滞在期間、1年）で、全員、非漢字圏学習者である。漢字学習を始めた段階では漢字能力はほぼ全員が0で出発するが、4年間学部で学習する学部の学生と比較すると、短い滞在期間のせいもあるのか、学習が進む段階で、6カ月もすると、漢字学習に興味を無くす学習者が必ず2～3人出てくる。が、その一方で、漢字に強い興味を持つ学習者も2～3人現われる。PLの導入により、この両者が情報を交換し、刺激し合い、漢字学習を有効に進

めていくことができるであろうと思われた。

さらに漢字学習以前の、PLによる仮名学習で学習者の自律的な文字学習が進み、文字、筆順の正確さに対する認識も増したことから、漢字学習にも、継続して、スタートの段階から、このPLを導入することで、漢字の字形、読み方、学習者が最も困難であると答えている記憶の保持にも有効に働き、学習者全員が漢字学習に自律的に参加していくのではないかと考えた。

3. 対象と方法

3.1. 活動の目的

2010年から仮名学習にPLを取り入れたことで、学習者の自律的な学習を促し、教師主導の教授法より、学習者の満足度、定着度が高かったことから、学習者にとって、習得に困難度が高い、漢字学習にもPLを取り入れることは、有効に働き、成果をあげるのではないかと考えた。本稿は2012年9月に来日した、本校のイギリスからの交換留学生の日本語クラスにおける漢字学習時のPLの会話データ、文字データ、学習者間のやりとり、提出物、小テスト、漢字学習終了後のアンケート、インタビュー等を分析し、PLによる新出漢字導入・練習・応用に於ける学習効果を考察したものである。

テキストは筑波大学留学生 教育センターから出ている、Basic漢字Book I IIを使用した。

3.2 活動の内容と方法

・ Basic 漢字Book I

ユニット2-1「漢字の書き方」：新出漢字の導入（文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味など）は教師主導でおこなった。

書き練習の段階からPLを導入。

学習者は各自、新出漢字を書き、以後、文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味などをPLで互いに確認、意見を交換し、間違いを訂正し合った。教師はその間、教室内をまわり、ファシリテーターの役割を果たす。

ユニット1 漢字の話

学習者同士で漢字の字源・成り立ち・使い方・ルール・分類法・語構成などを確認

ユニット2-2 読み練習

学習者同士で漢字の読み・発音・言葉の意味・使い方・使われている場面・文の表す意味・内容を確認

ユニット2-3 書き練習

学習者同士で漢字の形・筆順・語意・使い方・使われている場面・文の意味を確認。最終確認で板書する。

板書はペアから一人出て板書する。（板書する漢字はその課の漢字を中心に教師が口頭で指示）

ユニット3 読み物

① 学習者同士、一文ずつ、声を出して読む。

一人が読んでいる間、そのパートナーは発音・イントネーション・漢字の読みを確認、気がついたことがあれば助言する。一人が一文を読み終わったら、交替して、同じことをする。

② 学習者同士で話し合いながら、ストーリーの内容確認。

③ 学習者同士で話し合いながら設問を解いていく。

知っていますか、できますか

学習者同士会話を通して問題の解答を考えていく。

復習

学習者同士で設問を解いて、確認していく。

・ Basic 漢字Book II

Book II から教室での作業、家での準備作業に分かれる。

準備作業：ユニット2-1「漢字の書き方」、ユニット2-2 読み練習、

ユニット2-3 書き練習

学習者は家で前もってやっておく。

教室作業：ユニット2-1「漢字の書き方」、ユニット2-2 読み練習、

ユニット2-3 書き練習

家でやってきたものをPLで話し合い確認、助言し、間違い等を訂正し合う。

ユニット1 漢字の話、ユニット3 読み物、知っていますか、できますか、復習
Book I と同じように協働（PL）で学習していく。

Book I では教師主導で行った、新出漢字の導入（文字の形・筆順・音・音訓読み・言葉の意味など）も学習者が中心になり、教師はファシリテーターの役に徹し、教室内を回って助言を行う。確認のため、書き方、読み練習、書き練習、復習は回収してチェックする。返却後、学習者は返却されたものを再度、互いに話し合って検討する。

進度：

・ Basic 漢字Book I ⇒ 3日で1課。

1日目→新出漢字導入、ユニット2-1「漢字の書き方」ユニット1 漢字の話

2日目→ユニット2-2読み練習、ユニット2-3書き練習

3日目→ユニット3 読み物、知っていますか、できますか、テスト

・ Basic 漢字Book II ⇒ 2 日で 1 課。

1 日目→新出漢字導入、ユニット2-1「漢字の書き方」ユニット1 漢字の話、
ユニット2-2読み練習、ユニット2-3書き練習

2 日目→ユニット3 読み物、知っていますか、できますか、テスト

3.3. 学習者の背景

学習者は10名（イギリス）、母語は全員が英語で、過去に於いて全く日本語の学習経験がない0初級レベルで、文字は、仮名文字については、全く知識がなかったが、内1人は中国語の学習経験があり、漢字について中国語からの知識が少しあった。PLは学習者の母語である英語で行った。学習者10人中、3人はPLの知識があったが、PLの経験者は1人もいなかった。

4. 結果と考察

4.1. 学生の評価

アンケートはPLによる漢字学習3ヶ月目の2012年12月と6ヶ月目の2013年3月に行った。学習者は全員、漢字が好きで、もっと勉強していきたいと答え、漢字を知っていることは日常生活に便利で役に立つので漢字を学習すべきであると考えている。過去10年ほどの教師主導の漢字学習においては、漢字に興味を持たない学習者が必ずおり、学習者が日本語学習から脱落していく原因ともなっていた。今回の調査結果で、学習者全員が漢字を好きだと認識するようになったことはPLによる漢字学習の一つの成果だといえる。

PLによる漢字学習については全員が教師主導よりは楽しく学べ、いい刺激になり、漢字を覚える方略などの知識を互いに、交換し合うことで、より効果的な学習ができたと答えている。特に漢字学習で多くの学習者が困難を感じている記憶の保持に役に立ったという回答が多かった。PLの導入は、書き、読み、発音、筆順などに有効に機能したと認識している学習者が多かったが、書きには有効に機能しなかったと認識する学習者もいた。書きに関してPLは有効に機能したと考える学習者の方が多かったが書きのPLによる学習の有効性に対する認識は分かれたといえる。以下、学生に行ったアンケートとその結果である。4-2-1のアンケートは2012年12月に行ったが、この時点では、学習者の日本語能力が充分ではないため（日本語能力初級前半）、質問項目、回答ともに全文英語であり、ここに提示したのは日本語訳（筆者訳）である。4-2-2のアンケートは2013年3月に行い、この時点では、学習者は日本語で質問項目を十分理解できたので日本語になっている。但し、質問に対する回答・コメントは日本語、英語両方あったので、英語で書かれたものに関しては日本語訳を提示している。

4.2. データ資料・アンケートの分析

4.2.1. PLによる漢字学習に対する評価（回収率90%）

① PLによる漢字学習は楽しかった？

はい → 9人 計 9人

いいえ → 0人

- 面白い。
- 相手の覚え方を知り、覚え方に役に立つ方法などを話し合うのは漢字の学習を容易にする。
- 一人で勉強するより、楽しいし、簡単に学べる。
- PLは時間をとる。

② PLは漢字学習にいい方法だと思いますか？

はい → 8人 計 9人

いいえ → 1人

- 他の人と一緒に勉強するのは楽しいし、興味深い。
- 漢字は難しいし、繰り返すことが大切だからいい方法だと思う。
- いろいろの能力・弱点・強みがあるので、PLはこの力を分かち合うチャンスを与え、クラス全体が上達するようになる。
- 間違いを直し合うのは2人にとって役に立つ。
- 記憶を保つのにいい。（記憶の保持）
- 自分でやる方がいいが、他の人の覚え方を知るのは役に立つ。

③ 通常の教授法（教師主導）とPLとどちらが漢字学習にいい方法だと思いますか？

a. 教師主導 → 1人 計 9人

b. PL → 8人

- 他の人のやり方を学び、漢字の正しい形などを教え合うのは楽しいし、役に立つ。
- 漢字を覚え合ったり、教え合ったり、漢字を覚えるのに助けになるいい方法である。
- 教師主導で一方的に知識を与えられるより、学習者はより積極的、活動的になる。
- 教師主導より、インタラクティブで自分の考えを話し合いで言わなければならない。
- 両方とも役に立つが、新しく漢字を習うときは教師主導がいいが、そのあとはPLがいい。

④ 書き・読み・聞き取り・発音・語彙をパートナーと協働して学ぶのは漢字学習に役に立つと思いませんか？

はい → 9人 計 9人

いいえ → 0人

- 他人の覚え方を知るのは役に立つ。

- PLだといいい刺激になる。
- 書き練習の最初の段階で互いにチェックするのは役に立つ。
- 漢字の理解にレベルがいろいろあるので、互いの知識を交換、説明するのは語彙を増やすのに役に立つ。

⑤ 漢字学習でパートナーと互いにうまく助け合いましたか？

はい → 9人 計 9人

いいえ → 0人

- 漢字を一緒に読み、互いにその読みをチェック、フラッシュカード等も使ってチェック。
- 例になる言葉をたくさん一緒に見つける。
- 各々、1つの漢字に1つのストーリーを考え、交換し合う。⇒記憶の保持に役に立つから。
- 互いにテストし合ってチェック。
- 漢字の覚え方、練習するときの互いの漢字についてコメントし合う。

⑥ 漢字学習であなたはパートナーの役に立ったとおもいますか？

はい → 8人 計 9人

いいえ → 0人

* 1人 ⇒ 5番のQと同

- 互いに間違いを直し、覚え方など分かち合って役に立った。

⑦-1 PLで漢字を十分に学べたと思いますか？

a.はい → 7人 計 9人

b.いいえ → 0人

* a bの中間 2人

- 互いに間違いを直し、覚え方など分かち合って役に立った。

⑦-2 どの分野でPLがうまく機能したと思いますか？（複数回答可）

1 書き → 4人 計 9人

2 読み → 5人

3 筆順 → 2人

4 構造 → 1人

5 発音 → 5人*

⑦-3 どの分野でPLがうまく機能しなかったと思いますか？（複数回答可）

1 書き → 3人 計 9人

2 読み → 1人

3 筆順 → 0人

4 構造 → 1人

5 発音 → 0人*

⑧ PLによる漢字についてのあなたの意見・コメント・サジェスション

- PLで教えてもらえてうれしい。
- PLは面白いし、習うのにいい方法だと思う。
- 教師主導でノートに書いて覚えるより、想像力を働かせて、それを話し合うのは記憶、記憶の保持に大人の学習者には効果的である。
- PLは役に立つ、面白い勉強方法。
- 教師主導とPLを組み合わせて、自律して学ぶのがいいと思う。
- 他の人の覚え方を知るのにはいい方法だが、書き練習などは自分で学ぶものだと思う。

4.2.2. 漢字に関するアンケート（質問項目は全文日本語）

① あなたは漢字が好きですか？

- a. はい 7人 計 9人
b. いいえ 0人
a + b 2人

<理由>

- 楽しい、生活に役に立つ。
- 漢字は難しく、覚えるのに大変だが、いろいろの漢字を認識できるのは満足だ。
- 漢字を書くのが好きだ。
- 読解・聴解・語彙を増やすのに役に立つ。

② 漢字を知っていると役に立つと思いますか？

- a. はい 9人 計 9人
b. いいえ 0人

<理由>

- 日本では漢字を知っていると便利。（道路標識・メニュー・日本の友達にメッセージを書くなど）
- 町に出たとき便利。（普通ふり仮名がついていないので）
- 旅行・買い物等知っているととても役に立つ。
- 毎日の生活で漢字を使うのが好き。
- 早く日本語の本を読みたいから。
- 役に立つが難しい。

③ もっと漢字を勉強したいですか？

- a. はい 6人 計 9人
b. いいえ 0人

a + b

3人

<理由>

- まだ習っていない役に立つ漢字がたくさんあるから。
- 漢字ができるようになるほど日本語も分かるようになるから。
- 日本語の読解の力を伸ばしたいから。
- 漢字の組み合わせ、形、意味を知るのは楽しい。
- 話すことも学びたいが、漢字ももっと知りたい。
- 漢字を習うのは大切だが、興味を維持していくのは大変。

④ 漢字の勉強はどうしていますか？

- カード（単語カード）を使う。
- 漢字の部首を覚える。
- 新しい漢字を習ったら、話を作って覚えやすくしている。e.g. 座 ⇒ 广 の中で人が2人（人人）（土）の上に座っている等。
- 板書・カード・漢字の本などを使って覚える。
- I Patのカードを使う。
- 暇がある時いつでもカードを見て覚える。

⑤ どうやったら漢字が上手になるとおもいますか？

- 毎日の練習。
- 話で記憶を助け、記憶の保持に努める。
- すぐ忘れるから、習った漢字をなるべく使うようにする。（記憶の保持）
- 新しく習った漢字+前に習った漢字の復習と練習。（記憶の保持）
- いつも練習していれば、覚えるのも楽だし、忘れない。（記憶の保持）

⑥ 漢字の勉強はいつ、どのくらいしますか？

<いつ>（日本語クラスは毎日10:40am～14:20）

- 毎朝、テストの前の昼休み。
- 朝9時～10時。夜10時～寝るまで。
- 夜寝る前、週末。
- 週末以外毎日。

<どのくらい>

- 毎日30分～1時間（4人）
- 毎日10分～1時間（3人）
- 週4～5時間（2人）

⑦-1 クラスでPLで友だちと助け合って勉強していますがどうですか？

- より楽しいし、面白い。

- PLは楽しいし、役に立つ。
- 他の人のやり方を知り、自分に合った方法を見つけるのに役に立つ。

⑦-2 どんなところがいいですか？

<いいところ>

- 教師主導で知識を一方向的に与えられるより、自分達で考え、理解し、アイデアや知識を分かち合うことができるのは楽しいし、より役に立つ。
- 互いに学べるし、楽しい。
- 他の人の漢字の覚えやすい方法などを知り、自分でも検討できる。
- とにかく面白い。

⑦-3 どんなところがよくないですか？

<よくないところ>

- 時々散漫になる。
- 時として時間がかかる。
- 予習をしていないと大変なときがある。

⑦-4 どうしたらもっとよくなると思いますか？

- もっと想像力を駆使する。
- 自分でやる時間と、協働学習（PL）の時間を別々に設けてやる。

⑧ 漢字のテストはどうですか？

- | | | |
|---------|----|-----|
| a. いい | 6人 | 計7人 |
| b. よくない | 0人 | |
| a+b | 1人 | |

<理由>

- テストはいいが週2回ぐらいがいい。それ以上だと大変。
- 習うのに時間が限られている方がいい。
- 漢字の力を伸ばし、マスターするのにいい。
- テストという少しプレッシャーがあった方が記憶に残ってよい。

4.3. 結果

PLは漢字学習の全過程ではなく、特にBasic 漢字Book I では、新出漢字の導入は教師主導で行い、「漢字の話」から「読み物」「知っていますか・できますか」までをPLで行った。Basic 漢字Book II で、新出漢字導入も学習者中心に切り替え、PLを導入していた。以下項目で成果をみていきたい。

<書き>（教師の観察・テスト結果・提出物から）

形・止め・はね・各線の長短など、細かいところに注意が行き届き、教師主導のときよりも自己流の書き等が減り、正確さを意図する傾向が増した。

<読み・発音>

学習者のアンケート結果にも見られるように、互いが検証し合うことで、発音・読みの正確さが増した。

<筆順>

アンケートによれば、多数の学習者が有効に機能したと認識しているが、PLによる、筆順チェックにあまり時間がとれなかったこともあり、板書の時点での教師による確認の際、PLが十分に機能していたと教師側からは確認できなかった。

<意味の確認>

学習者は互いの既習漢字の知識を活かして、互いにの知識を出し合い、情報を交換し合うことで、教師からの一方的な知識の授与ではなく、より創造的に学習を進めていった。

4.4. 考察

アンケートではほぼ全員がPLによる漢字学習が面白いと答えているのは、ペアの相手の学習者から新出漢字の覚え方の知識や方略が学べると同時に、自分自身の学習方法・知識を見直すきっかけになり、そのことで漢字学習が進み、その達成感が互いの知識・方略の情報交換の過程で記憶の保持を促し、漢字の習得が面白いと学習者に感じさせたと思われる。

PLによって、教師主導の一方的な知識の受け手ではなく、個々の漢字学習ストラテジーをインターアクションを通じて、学習者同士、ファシリテーターである教師が共有することで、学習者は主体的に学習に取り組み、自律的に学習を進めることができたといえる。

特にBasic漢字Book IIでは進度も速くなり、準備作業にかなり時間がかかるため、教室外での学習時間が増えるが、教師主導時にみられた家庭学習時の不十分さがなくなり、教室での協働学習(PL)が進んだ。これはペアを組み、協働して学習していくことが学習者の、仲間と助け合い、学習をより良く進めていきたいという気持ち育て、さらには教室外での準備、学習過程が学習者の内省を促すことにも機能していたとみられる。

5. まとめと課題：2つの課題

今回、文字学習としての仮名学習に引き続き、漢字学習に協働学習を取り入れたことで、学習者は、日本に来るまで、PLによる学習経験はなかったが、アンケート結果からも分かるように、来日後の2012年9月以降に導入した、PLによる仮名学習時の経験を活かし、各過程で教師主導の漢字学習よりは成果があがり、満足度も高かった。そのため、さらにBook IIに進んだ段階で学習者はより自律的に学習を進めていくことができた。こ

これは今回の実践の成果であるが、問題点もあり、以下の2点を今後の課題としていきたい。

1つは文字の学習にはプラグマティックな側面があり、内省が意識して行われたい限り、学習者の認識いかんでその効果は異なってくる。学習者が対話による内省を通して、自分自身の問題として学ぶ対象を捉えることが重要であり、学習者を導く教師の役割は大きく、漢字学習をPLで行っていく際のファシリテーターとしての教師の役割のさらなる分析が今後必要であると思われる。

2つ目はピア、PLの活動は学習者の母語である英語で行われたが、学習者の日本語のレベルが上がるにつれて日本語による対話に切り替えていく機会をうまく捉える事ができなかった。全員同じ母語の学習者が初級段階から、中級段階に移行するとき、母語+日本語、さらにはより多くの日本語を使用する対話、ピアの活動へと移行させていく可能性を探ることが必要であると思われる。

教室活動としては、今回、漢字学習の全過程でPLによる指導は行わなかったため、今回の成果でPLによる漢字学習について全てを判断できないが、一つの参考資料とはなりえる。

参考資料 1

Survey (Basic 漢字)

Name:

1 Have you enjoyed learning Basic 漢字 (かんじ) using the Peer Learning Method ?

- a. yes
- b. no

Comments :

2 Is the Peer Learning Method a good learning method for learning Kanji 漢字 ?

- a. yes
- b. no

Comments :

3 Is the Peer Learning Method more useful than traditional teaching methods for learning Kanji (漢字) ?

- a. yea
- b. no

Comments :

4 Does learning writing, reading , listening, pronunciation or vocabulary with a partner, help you learn Kanji 漢字 ?

- a. yes
- b. no

Comments :

5 Can a student help a partner to learn Kanji 漢字 and vice versa ?

a. yes

b. no

If your answer is 'yes' how did it help you ?

If your answer is 'no' please explain.

6 Does the Peer Learning Method significantly help each partner to learn Kanji, 漢字 ?

a. yes

b. no

If your answer is 'yes' please explain.

If your answer is 'no' please explain.

7 Does the Peer Learning Method help you learn Kanji 漢字 ?

a yes

b. no

If your answer is 'yes' which area benefited most?

1 writing 2 reading 3 stroke order 4 structure 5 pronunciation

If your answer is 'no' which area benefited least?

1 writing 2 reading 3 stroke order 4 structure 5 pronunciation

8 If you have any comments, opinions or suggestions about learning Kanji 漢字 using the Peer Learning Method, please explain.

参考資料2

S u r v e y (Basic 漢字)

N a m e :

1 あなたは漢字が好きですか。

a. はい

b. いいえ

reason : (その理由)

2 漢字を知っていると役に立つ (useful) と思いますか。

a. はい

b. いいえ

reason : (その理由)

3 もっと漢字を勉強したいですか。

a. はい

b. いいえ

reason : (その理由)

4 漢字の勉強はどうしていますか。

5 漢字はどうやったら上手になるとおもいますか。

6 家で漢字の勉強はどうしていますか。

7 漢字の勉強はいつしますか。 どのくらいしますか。
いつ：

どのくらい：

8 家での漢字の勉強とクラスでの漢字の勉強とどちらが好きですか。
a. 家で
b. クラスで
c. りょうほう
reason：（その理由）

9 クラスではPeer Learning Method で友だちとたすけあって勉強していますが
ど
うですか。
漢字の勉強にいい方法（やり方）だとおもいますか。
どんなところがいいですか：
どんなところがよくないですか。
どうしたらもっとよくなると思いますか。

10 漢字のテストはどうですか。
a. いい
b. よくない
reason：（その理由）

参考文献

- 平塚真里、・副田恵理子（2005）『漢字学習における漢字辞書使用の効果』日本語教育125号
（2008 日本語教育学会予稿集）
- 清水百合・加納千恵子（1992）『CAIを利用し成果を得た漢字学習』－漢字学習と自学自習のメカニズム－
- 池田玲子・館岡洋子(2007) ピア・ラーニング入門：『創造的な学びのデザインのために』ひつじ書房 日本語教育78号
- 川口儀一（1993）『コミュニカティブ・アプローチによる漢字指導』日本語教育80号
- 谷田部由木（2007）『非漢字系理系 大学院留学生のための効果的な漢字指導』- 認知心理学的な観点から- 日本語教育学会秋季大会予稿集
- 豊田悦子（1995）『漢字学習に対する学習者の意識』日本語教育85号
- 玉村文朗（1993）『日本語における漢字』- その特質と教育-

著者

Ikehara Akikoは日本経済大学、国際部所属。氏の研究分野はプロジェクト・ワーク、協働学習、Peer Learning、日本語教授法などである。近年、特に 協働学習による「プロジェクト・ワーク」「仮名の指導」「日本の行事の導入と成果」「漢字指導」など、協働学習 による日本語教授法を中心に研究をしてきている。